

## 2020 年度前学期 学生による授業評価アンケート総評

2020 年 10 月

浦安キャンパス

ファカルティ・ディベロプメント委員会

本総評は、2020 年度（令和 2 年）前学期に実施した浦安キャンパスにおける「学生による授業評価アンケート実施結果」について、各学部学科及び教育センターによる集計結果分析に基づき、全体の傾向と特徴、明らかになった課題及び今後の授業改善に向けた方策についてまとめたものである。

### 1. アンケート実施結果の概要

- (1) 実施期間 2020 年 8 月 10 日（月）から 8 月 15 日（土）まで
- (2) 実施対象 全教員，595 科目  
ただしゼミ科目，履修者 5 名以下の授業科目，および再履修者のみが履修する授業科目は除く。また同一名称の授業科目を 1 名の教員が複数担当している場合は，履修者最多の授業科目をアンケート評価の対象としている。
- (3) 調査方法 Web 入力方式（スマートフォンやパソコンを使って遠隔で実施）
- (4) 評価方法 5 段階評価（5. 満足，4. やや満足，3. どちらともいえない，2. やや不満，1. 不満）
- (5) 質問項目 授業について 8 項目，その他  
下記の通り遠隔授業に対応した質問項目とした。  
質問 1. 平均授業外学習時間  
質問 2. 配布物は読みやすかったですか  
質問 3. 課題の量はあなたにとって適切でしたか  
質問 4. 授業の内容を自分なりに理解できましたか  
質問 5. 教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか  
質問 6. 教員の学生への対応（質問等）は適切でしたか  
質問 7. この授業で興味や関心が深まりましたか  
質問 8. この授業に対するあなたの満足度をお答えください
- (6) 回答率 40.0%（延べ履修者数 24,264 名，延べ回答者数 9,701 名）

日本語	英米語	中国語	GSM	経済	不動産	HT	口腔保	基礎	人間力	キャリア	特別	複言語	教職
48.2	37.3	61.0	43.2	39.1	33.7	37.2	71.3	50.1	32.9	37.7	50.8	53.4	37.1

注. GSM = 外国語学部 GS 関連科目，人間力 = 人間力形成教育，キャリア = キャリア形成教育，複言語 = 複言語・複文化教育，基礎 = 基礎教育の略である。

## 2. 集計結果と分析

表1は各質問項目に対する評価の平均値を学科別(科目区分別)に集計したものである。各項目における平均値はほとんど全ての学科において4.0(やや満足)を超えており、多くの学生が高い水準で授業に満足していたといえる。ただし、この水準を下回る傾向にあった質問項目は「課題の量はあなたにとって適切でしたか」「授業の内容を自分なりに理解できましたか」であり、対面授業には無い、遠隔授業の難しさや課題が見えている。一方で「配布物は読みやすかったですか」や「教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか」および「教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか」に対する評価は概ね高く、各教員が創意工夫して遠隔授業に臨んだ成果が表れていると言える。最後に注目すべきは平均の授業外学習時間で、2020年度の到達目標である45分を超えた学科・科目区分が多くあった(キャリア、特別科目、GSM、日本語、英米語、中国語、経済、不動産、口腔保、教職)。その他も目標に近い水準まで学生たちの予習・復習時間が増加している。例年と比較して高い水準となったこの結果は、遠隔授業(あるいは反転授業)の利点の1つである。

表1 授業評価アンケートの実施結果(平均値・学科別)

設問文	基礎	人間力	キャリア	特別科目	GSM
平均授業外学習時間	43.12	38.15	60.89	63.86	52.94
配布物は読みやすかったですか	4.04	4.21	4.26	4.80	4.34
課題の量はあなたにとって適切でしたか	3.74	4.14	3.72	4.74	4.26
授業の内容を自分なりに理解できましたか	3.81	4.07	4.15	4.67	4.18
教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか	4.14	4.27	4.32	4.82	4.32
教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか	4.08	4.15	4.33	4.80	4.25
この授業で興味や関心が深まりましたか	3.76	4.14	4.11	4.61	4.17
この授業に対するあなたの満足度をお答えください。	3.91	4.13	4.02	4.67	4.21

表1 授業評価アンケートの実施結果(平均値・学科別) 続き

設問文	日本語	英米語	中国語	経済	不動産	H T	口腔保	教職	複言語
平均授業外学習時間	45.75	50.24	46.57	53.31	50.95	43.61	48.76	50.44	36.19
配布物は読みやすかったですか	4.35	4.12	4.41	4.14	4.16	4.24	4.38	4.22	4.11
課題の量はあなたにとって適切でしたか	4.28	3.94	4.44	4.15	4.11	4.11	4.30	4.03	3.79
授業の内容を自分なりに理解できましたか	4.17	4.04	4.36	3.97	3.94	4.12	4.04	4.14	4.01
教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか	4.38	4.26	4.52	4.15	4.15	4.39	4.43	4.50	4.28
教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか	4.34	4.14	4.43	4.15	4.11	4.29	4.37	4.36	4.19
この授業で興味や関心が深まりましたか	4.18	4.09	4.38	4.04	4.04	4.18	4.17	4.13	4.09
この授業に対するあなたの満足度をお答えください。	4.28	4.05	4.40	4.06	4.04	4.20	4.25	4.18	4.07

図1は、「この授業に対するあなたの満足度をお答えください」という質問項目に対する評価の高低を決定する条件を示している。条件を分岐させる要因としては、すべての質問項目に加え、性別、所属学科、学年、必修/選択の別、欠席回数、積極性を投入した。

決定木分析の結果、最大の要因は「この授業で興味や関心が深まりましたか（興味関心：ノード1）」であり、評定平均値3.5が分岐点となった。例えば興味関心が3.5以下かつ熱意（ノード2）の評定平均値も2.5以下の場合、満足度の中央値は最低の2.0（やや不満）となっている。ただし、興味関心が低くても、熱意が一定より高く（2.5以上あるいは3.5以上）、かつ課題量が適切な場合（2.5以上）には満足度が向上することもわかった。

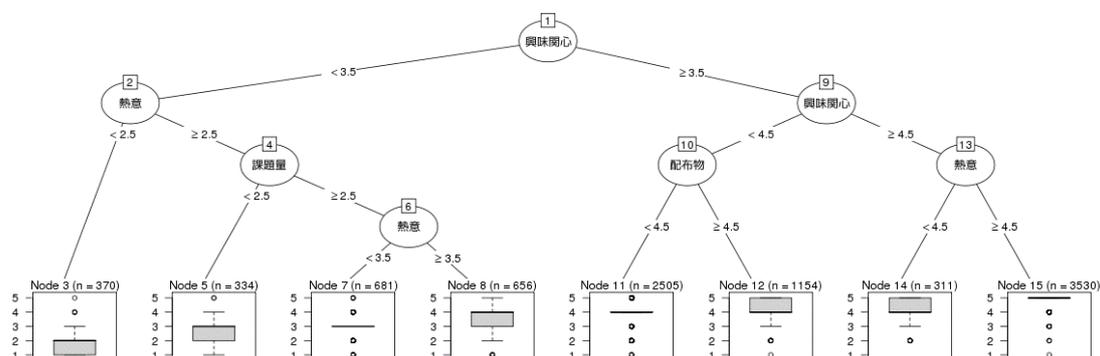


図1 「授業に対する満足度」を予測する要因の決定木

続いて、興味関心が4.5より高い場合、「教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか（熱意：ノード13）」に対する評定値が授業満足度に関わっていた。特に熱意を強く感じられる授業（4.5以上）であれば、満足度の中央値が最大の5となっている。ここまで高い興味関心を引くことができなくても、「配布物は読みやすかったですか」に対する評価が高い場合には、より高い満足度を得ることができている。いずれにせよ、興味関心の評定平均値3.5を超えることが肝要であり、その場合には多くの学生が授業に対して満足していることがわかった。

図1のモデルに含まれなかった要因（たとえば理解度や学生対応）が重要でないというわけではないことに注意したい。これらの要因は授業の質を決めるものであり、興味関心や熱意へと表れていると考えられる。

### 3. 明らかになった課題

授業評価アンケート実施の集計結果と分析に基づき、明らかになった主な課題は、以下の通りにまとめられる。

#### (1) 遠隔授業の特性を考慮した授業運営の必要性

今回のアンケート結果によると、対面授業時（前年度同時期の総評参照）と比較して、

多くの質問項目で評定平均値が低下していることがわかった。依然として評定平均値は4.0を上回っているケースが多いものの、課題の量の適切さであったり授業の理解度であったりといった項目の評価が低くなる傾向が見られた。これは遠隔授業の実施と深く関わる結果と考えられ、各教員が遠隔授業の特性を考慮した授業運営をすることが求められる。

## (2) (遠隔) 授業における満足度を向上させる要因の把握

今後も一部の授業が遠隔で実施されることを踏まえ、学生が遠隔授業に何を求めているかを理解することは重要である。ただし、決定木分析の結果は遠隔・対面を問わず、満足度に影響を与える要因を抽出できているように思われる。具体的には、何よりもまず学生の興味関心を引く授業づくりが求められる。それらは教員の熱意であったり、課題や配布物などの質であったりといったものに現れると学生は捉えているようである。全履修者のうち約1,300件で授業満足度が3.0以下であったことを考慮すると、授業づくりの基本に立ち返る必要があるといえる。

## 4. 今後の授業改善に向けた方策

上記の課題に対し、授業の内容と方法についてさらなる改善を目指す必要がある。今回のアンケートでは学生の授業外学習時間が大きく改善したことが示されていることから、遠隔授業（あるいは反転授業）の利点を取り入れた授業運営が今後求められるようになるだろう。授業の方法の見直し（学期途中での受講生の理解度を確認する、小テストやレポートなどの中間課題を出すなど）を通じて、学生の学びに対し常にフィードバックを与えることで、理解度や内容に関する興味関心、ひいては授業の満足度を向上させることができるだろう。対面授業時と同じく、継続して授業改善の工夫をすること（適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される、授業時間外に教員から個別指導や助言を受けるオフィスアワーの活用など）が重要である。

授業内容・方法の改善に向けては、多くの教員（各学部長・学科主任のリーダーシップのもと、科目コーディネーター・教務委員・FD委員など）が協働し、継続して努力する必要がある。そのような取り組みを非常勤講師にも伝達するため、学期が終わった時点での振り返りを通じて、授業評価の結果を積極的に情報共有し、成績評価の結果も勘案しつつ、シラバスや授業の方法などを見直し、次の学期に向けて必要な授業改善に取り組むことが肝要である。例えば、第1回授業開始前に、非常勤講師と専任教員の授業方針・運営の意見交換の場を設けるなど、教員間の積極的なコミュニケーションが必要である。これは、遠隔授業によって、学生だけでなく教員も情報交換などのやり取りをする機会が減少している今、考慮すべき事項の1つであるといえる。